

## 7. 大学入試の動向

「平成 31 年度 大学入試の結果と今後の入試動向」

大学通信 安田 賢治 氏

## 私立大は上位大で志願者減少が顕著

今年の私立大入試の特徴は、上位大で志願者減少が顕著だったことです。早慶上理（早稲田、慶應義塾、上智、東京理科）では、東京理科大だけが志願者が増え、全体では2.8%の減少でした。MARCH（明治、青山学院、立教、中央、法政）では中央大だけが増え、3.8%の志願者減少。関関同立（関西、関西学院、同志社、立命館）では、関西大だけが増え、4.1%の志願者減でした。昨年は慶應と関西学院を除いて志願者増だったから逆の結果となりました。志願者が激増したのは難易度が50以下の大学・学部でした。このような安全志向が顕著な入試状況になった大きな理由は、二つあると見られます。

### ① 定員の厳格化

ひとつは2016年から始まった大都市圏の定員厳格化の影響です。2016年から地方創生の一環として、大都市圏の大学の入学者を抑制する政策がとられています。特に大規模大学(入学定員が2000人以上の大学)で大きく入学者を減らすことになりました。大都市圏の大規模大学の入学者を減らすことで、地方の大学の入学者を増やそうという考えです。これが地方創生につながるということです。

2015年までは定員の1.2倍までの入学を認め、文科省から補助金をもらうことができました。これを超えると補助金はもらえません。それを2016年には1.17倍、2017年には1.14倍、2018年には1.1倍までに減らしてきました。入学者を減らすことは合格者を減らすことにつながります。この3年で早稲田大は一般入試の合格者を3,749人減らしました。明治大は3,693人、青山学院大は2,772人、立教大は2,746人など、大きく減らしています。昨年までは志願者が増え、合格者が減ったため大激戦になりました。高校でも大学合格実績が伸びない学校が続出しました。

このように合格者を減らし続けてきた反動が今年、出たと見られます。もはや、併願校を増やすことでは難関大合格は勝ち取れないと、上位校受験を諦める受験生が増えたと見られます。ところが私立大全体では、志願者は4%増えています。少子化で受験生は減っていますから、受験生は併願校を増やしたことは間違いありません。昨夏、全国の進学校の進路指導教諭にアンケートを行い、「来年の私立大対策をどう指導するか」を聞きました。835校から回答があり、「併願校を増やすよう指導」が59.0%。次いで「センター利用入試の受験を勧める」29.0%、「推薦・AO入試の受験を勧める」23.7%の順でした。今年の入試はこの指導通りとなり、併願校を増やす受験生が多かったのです。しかも難易度が50未満の大学・学部で志願者が激増しています。安全志向が顕著で、弱気な受験が多かったのが今年の入試の特徴です。さらに、指定校推薦を活用した高校も多く、合格者が増えた大学も見られました。その分、大学の一般入試の合格者が減ることにつながり入試が厳しくなりました。

定員厳格化を恐れていた受験生ですが、現実には、各大学はそれほど合格者を減らしていませんでした。なぜなら、当初の予定では今年から私立大は入学者を定員通りでないとして助成金をカットする方針でした。ところが、これまでの厳格化で地方の大学の入学者が改善されたことで、昨年までの1.1倍未満の入学者でいいことになったのです。そのため、合格者を増やす大学も出てきました。当初合格者数は、早慶は微減でした

が、MARCHは法政大を除いて増やし、合計で2,866人増になりました。それでも合格実績が伸びなかった学校が多かったのは、MARCHの難化です。埼玉のトップ校の浦和・県立が明治大でトップ、浦和第一女子が立教大でトップなど、合格者を増やす上位校が多く、そのあおりを受けたと見られます。

## ② 2020年度からの大学入試改革

もうひとつの理由が大学入試改革です。一般入試では2021年入試から大学入試改革が行われ、現行のセンター試験が廃止になり、新しく大学入学共通テスト（以下、共通テスト）が始まります。このテストでは、外部英語試験の成績が必要で、国語と数学にマーク式だけではなく記述式の試験も課されます。これは受験生にとって明らかに負担増になりますから、センター試験最後となる来年入試では、浪人すると共通テストを受けることになり大変だと、今まで以上に安全志向、現役志向が強まると見られています。来年入試は今年以上に厳しくなると予測されています。そのため、今年、入試に失敗すると、その厳しい入試に挑むことになり、それを避けようとの意識が高まり、安全志向が顕著になったと見られます。

## 国公立大は4年連続の千葉大、

## 私立大は6年連続の近畿大がトップ

表1 今年の国公立大志願者数トップ20

順位	設置	大学名	所在地	志願者数	昨年比
1	国	千葉大	千葉	10,611	-145
2	国	北海道大	北海道	10,341	492
3	国	神戸大	兵庫	9,959	-21
4	国	東京大	東京	9,483	-192
5	公	首都大東京	東京	8,593	339
6	国	富山大	富山	8,437	-41
7	公	大阪府立大	大阪	8,408	-62
8	国	京都大	京都	8,025	-208
9	国	横浜国立大	神奈川	8,016	-177
10	国	九州大	福岡	7,548	-177
11	国	大阪大	大阪	7,536	-331
12	国	信州大	長野	7,418	361
13	国	広島大	広島	7,284	109
14	国	山口大	山口	7,152	623
15	国	静岡大	静岡	7,003	669
16	公	兵庫県立大	兵庫	6,860	668
17	国	筑波大	茨城	6,584	520
18	国	茨城大	茨城	6,439	771
19	国	岐阜大	岐阜	6,329	-558
20	国	東北大	宮城	6,252	-388

今年の入試で、志願者が増えた大学を見ていきましょう。

まず、左の表1を見てください。国公立大志願者トップは4年連続で千葉大で1万611人でした。昨年より145人減です。2位は北海道大、3位は神戸大でした。

今年の国公立大は志願者が0.9%増え、7年連続志願者減に歯止めがかかりました。志願者が増えた理由は、5教科7科目の平均点が、文系、理系とも10点以上アップしたことにあります。内訳を見ると国立大は微減で、公立大が3.1%の志願者増でした。国立大より入りやすい公立大が狙われたと見られます。これは今年の入試で安全志向が強かったことの証しです。旧7帝大（北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州）では、北海道大以外はすべて志願者減となりました。

上位の千葉大、北海道大、神戸大の志願者が多いのは、後期試験の募集枠が大きいこともあります。北海

道大は492人です。後期試験を廃止する大学も多く、4位の東京大は前期試験のみの志願者数です。公立大トップは5位の首都大東京でした。

表2 今年の私立大志願者数トップ20

順位	大学	志願者数	昨年比
1	近畿大	154,672	-1,553
2	東洋大	122,010	6,569
3	法政大	115,447	-7,052
4	明治大	111,755	-8,524
5	早稲田大	111,338	-5,871
6	日本大	100,853	-14,327
7	立命館大	94,198	-4,064
8	関西大	93,452	1,236
9	中央大	92,686	4,504
10	千葉工業大	90,876	11,971
11	立教大	68,796	-2,997
12	東京理科大	60,593	4,027
13	青山学院大	60,404	-2,501
14	東海大*	57,995	5,973
15	専修大	56,201	10,440
16	龍谷大	55,444	3,642
17	京都産業大	55,350	4,788
18	同志社大	53,751	-4,845
19	福岡大	50,281	1,302
20	駒澤大	48,715	3,900

3月25日現在 \*は未確定

桜美林大、國學院大、東京都市大、立正大などです。確実に合格を勝ち取るため、前年志願者が増えた大学・学部は敬遠され、逆に志願者が減った大学・学部が増えるという傾向が顕著になりました。

また、センター試験利用入試の志願者が10%ほど増えたのも今年の入試の特徴です。今の受験生は現役進学にこだわり、国公立大志望者がセンター試験利用入試を例年以上に活用したことや、私立大志望者が併願校を増やすために活用したと見られます。センター試験利用入試は出願するだけで合否が分かり、受験料も一般入試の半額のところが多く、使いやすかったことがあると見られます。国公立大志望者にとっても、私立大を併願するにしても大学別の入試対策を取らずに受験できるメリットがあります。

一方、私立大はというと、近畿大が6年連続トップでした。1553人減でしたが、これは安全志向の影響でしょう。産近甲龍（京都産業、近畿、甲南、龍谷）とひとくくりに言われることが多いのですが、この中で近畿大だけが志願者減でした。東洋大は過去最高の志願者数で初の2位に入りました。特に中期、後期で志願者が増えました。2月試験で失敗した受験生も多く、後半の入試が狙われたと見られます。また、日東駒専（日本、東洋、駒澤、専修）では日本大だけが志願者減で、1万人超増えた専修大など、残りの3大学の志願者は増加しました。日本大はスキャンダルから敬遠されたと見られます。中学入試でも日本大の付属校の敬遠傾向がみられたのと同じです。

3位は法政大、4位は明治大、5位は早稲田大でした。早稲田大は初めて5位になりました。今年も10万人超の大学が6校となりました。MARCHでは中央大だけが増えましたが、国際経営、国際情報の2学部が人気を集めたことも影響しています。特に国際情報は都心の市ヶ谷に設置され、人気が高くなりました。志願者が大きく増えたのは武蔵野大、

## “文高理低”の学部人気に変化の兆し

2015年から文系学部の卒業生の就職が改善したことを背景に、文系学部人気が続いてきました。それが、今年は少し傾向が変わってきています。表3を見てください。これは私立大の学部・学科系統別に昨年の志願者数を100とした時の今年の指数です。大手私立大100校を調査したものです。私立大平均は104.2になります。志願者増加トップは国際系の126.1になりました。26.1%の増加です。中央大の2学部の新設も大きいと見られますが、昨年は敬遠されていたこともあり、大きく増加しました。

表3 学部系統別人気

学部系統	指数
国際系	126.1
情報・メディア系	118.0
心理	111.3
人間・人間科学	111.3
経営	108.2
理工系	107.3
生命科学	107.2
教養	105.4
法	104.6
私立大平均	104.2
社会	102.6
教育	101.9
商	101.3
文・人文	100.7
経済	99.2
医	97.6
外国語	97.2
医療技術	96.6
農	95.5
看護	92.6
薬	92.5

グローバル化時代の到来を言われて久しいのですが、再び人気になってきました。国際系は教養など、人文科学系の学びが多かったのですが、学習院大が国際社会科学部を新設し、世界で活躍するビジネスパーソンを育成するなど、社会科学系の学部が増えてきています。今年中央大の2学部も同じです。こういった学びの多様化も人気があっただけでなく理由と見られます。2位は情報・メディア系の118.0です。AI、IOTやビッグデータの活用で、世の中が大きく変わります。理工系でも情報系の学科が設けられており、人気が高くなりました。

1位と2位を見ますと、世の中の動きにあわせた人気と見られます。また、就職を考えながら、学部を選ぶのが当たり前になってきています。東京オリンピック・パラリンピックが終わって、景気が後退すると言われており、その時にも就職がいいと思われるところを選んでいくことも考えられます。

次に人気になったのが心理系です。2018年から公認心理師の国家資格が設けられたことも人気の要因と見られます。また、人気の高かった商・経済・経営系では明暗が分かれました。経営の人気は高いままで、経済と商は志願者減となりました。難化したことで敬遠されたと見られます。代わって、同じ社会科学系では法学部の人気が復活しました。

人気低下しているのが医療系です。上位大には看護や医療技術系の学部を設置している大学が少ないため、大きく減少していますが、もう少し志願者は多いと思われます。ただ、平均を下回っていると見られます。不適切入試があった医学部ですが、今年は透明な入試になったことは間違いありませんが、追加合格者のために募集人員が減少していることもあり敬遠されました。

## 2020年度の大学入試改革でどう変わるか

この4月から高校2年生になる生徒から、大学入試改革による新しい入試を受験することになります。学力の3要素、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を見る入試に代わります。大きな変更点は、センター試験が廃止になり、大学入学共通テストに代わることです。

共通テストでは、センター試験のマーク式の試験は残ったうえで、国語と数学に記述式の問題が入ります。数学は解答を書くだけですが、国語は文章を読んで記述する問題が出題されます。特に国語はセンター試験では52万人が受験しました。短期間で受験生の解答を公正、公平に採点できるのか注目されています。大学入試センターから各大学への成績提供は、今までより1週間遅くなるとされ、私立大などの入試日程が後ろ倒しになりそうです。

表4 2021年一般選抜の方式

大学	学部	主体性等評価		入試方式	大学入学共通テスト	外部英語試験	大学独自試験など
		出願要件	得点化				
早稲田大	政治経済	○	×	一般	○	○	○
		○	×	共通テスト利用	○	×	×
	国際教養	○	×	一般	○	○	英語
	スポーツ科学	○	×	一般A	○	×	小論文
		○	×	一般B	○	×	×
		○	×	一般C	○	×	競技歴調査書
慶應義塾大	全	○	×	全	×	×	○
上智大	全	○	×	TEAPスコア利用型	×	TEAP	○
		○	×	共通テスト併用型	○	○	○
		○	×	共通テスト利用型	○	○	×
青山学院大	全(除く経済など)	○	×	個別学部日程	○	○(一部除く)	○
	経済	○	×	個別学部日程	×		○
	文一部	○	×	個別学部日程	×		○
	理工一部	○	×	個別学部日程	×		○
	全	○	×	全学部日程	×	×	○
	全	○	×	共通テスト利用	○	○	×

英語は4技能（読む、聞く、書く、話す）重視になり、現行のセンター試験で課されていない「書く」「話す」については外部英語試験の成績を活用します。外部英語試験は何を受けるか事前に届け出て、高校3年の4月から12月に2回受検し、高得点のほうが成績になります。文科省の調査によると、高校3年の6月に受検する人がもっとも多くなりそうだということです。外部英語試験は英検、GTEC、TEAP、

TOEIC、TOEFLなど多くの試験が、共通テストの成績として認められます。この各試験の成績をCEFR（セファール）という尺度によって、統一した成績にします。CEFRは6段階評価で、トップのC2から、C1、B2・・・A1です。高校にアンケートを取ったところ、各校の外部英語試験対策ではGTECがもっとも多く、次いで英検で、他の試験は10%を切っています。

学力の3要素のうち、「主体性・多様性・協働性」については、文科省が実証実験を始め「JAPAN e-Portfolio」（ジャパン イーポートフォリオ）というサイトを立ち上げました。関西学院大、早稲田大など、大学が実証実験を行ってきました。ここに高校生自ら、活動歴を書き込み、論文、部活動の実績など、エビデンスをアップしていきます。高校の教員は事実関係だけを承認します。この実績を大学が見て評価していくというものです。現在、約3280校、約17万5千人が活用しているということです。すでに入試に活用している大学もあります。4月からは一般社団法人 教育情報管理機構が運営していくことになっています。

この共通テストを各大学がどう使うかですが、今年の3月末までに公表ということになっています。国立大では共通テストと大学独自試験での合否判定は変わりません。そのなかで、共通テストをどう使うかが注目されています。東大は外部英語試験A2以上が出願要件で、試験を受けていない受験生については調査書に「A2以上の力がある」と書かれてあればよいことになるようです。外部英語試験は会場で行われるのがほとんどで、受験に経済格差が生じることを懸念する大学が多くなっています。京大も東大に追随するのではないかとされています。一方、東北大は外部英語試験のスコアを使わない、国語の記述式の成績も使わないことを公表しています。

私立大はというと、多くの大学がセンター試験利用入試を共通テスト利用入試に代えるだけで今まで通りと見られます。段階評価の国語の記述式を得点化するのかなど、各大学の判断により細部は今後、発表されます。ただ、なかには前ページの表4のように、積極的に活用する大学もあります。早稲田大の3学部は共通テストを受検していないことには、出願できないこととなります。しかも政治経済学部は数IAを必須にします。いわゆる私大文系型の受験生は受けにくくなります。同学部では入学後、数学が必修になっており、入試段階からその力を見ることになりました。現在、数学は選択科目ですが、志願者の約4割が数学を選択しています。

上智大はTEAPスコア利用型方式以外は、共通テスト受検が必須になります。上智大は今までセンター試験に参加していませんでしたが、大きく変わることとなります。全く使わないとしているのは慶應義塾大だけです。平成2年から始まったセンター試験では私立大の参加が認められ16大学が参加しました。この時、慶應義塾大は参加し早稲田大は参加しませんでした。それが新しい大学入学共通テストでは、早稲田大が参加し、慶應義塾大は参加しないという逆の結果になりました。

また、「主体性等評価」に関しては、多くの私立大が出願時に記入するだけで、合否判定には使わないことを発表しています。国立の筑波大は調査書の点数化を公表しており、これも大学によって変わってくるようになります。現行の推薦入試やAO入試で学力を求める方向になり、一般入試では高校の活動歴を合否に使うようになっていきます。3つの入試がほぼ変わらないようになると見られます。

## <入試トピックス～次の大学入試改革は？>

今年、中学に入学した生徒が受験する時から、大学入試がさらに変わります。学習指導要領が変わって初めての入試になります。いわゆる新課程入試初年度です。歴史総合、地理総合、数理探究など新しい科目が設けられます。これにあわせ共通テストの改革も検討されています。パソコンやタブレットで解答するCBT方式の導入、英語の試験はすべて外部英語試験の成績にする、共通テストの複数回実施、国語の記述式を長文に、地理歴史、公民、理科でも記述式問題導入などが言われています。ただ、英語をすべて外部英語試験にすることには反対が多くなっています。高校の先生からは、高校の英語の授業が外部英語試験対策になってしまうと懸念されています。

ただ、こういった改革を見ていると、外国語重視はもちろんですが、書く力を求められており、国語力も重要になってくると見られます。中学入試で算数1科目入試実施校が増えましたが、早稲田の政治経済学部で文系の学部ながら数学を必須にする大学も出てきています。新学習指導要領では小学校1年生からプログラミングの授業が始まります。それを考えると、これからは英語、国語、数学の力が求められるようになるのではないのでしょうか。



## 8. 入試統括

「平成 31 年 入試の総括として」

ミヤザキプランニング 宮崎 文雄 氏

## 平成 31 年入試の総括として

ミヤザキプランニング 代表 宮崎文雄

平成 31 年の中学・高校入試には大きな動きがありました。その背景には2年後に迫った大学入試改革、教育のグローバル化、進むIT社会という大きな3つの流れがあると思います。

2020 年から導入される「大学入試共通テスト」は新高校2年生からが対象となりますが、現行のセンター入試と異なり、マークシート方式に加え記述方式の問題も出題され、知識・技能だけでなく、思考力、判断力、表現力が問われます。さらに英語については「読む・聞く・話す・書く」の4技能が民間の検定試験などを利用することによって採用されます。それを受けて中学を中心にこの2、3年、教科入試ではなく、思考力・表現力を問う適性検査型入試や教科横断型入試、合科型入試、あるいは英語入試などが導入され、実にバラエティーに富んだ入試が行われるようになりました。

しかし、記述式問題の出題方法や評価基準、民間の検定試験を利用した英語4技能をどのように評価するかなどは、各大学とも手探り状態で、評価基準の統一性が保てるかなどの問題点もあり、評価する側にも受検する側にも不安感を強く感じます。

国際競争力を持った人材の育成(教育のグローバル化)やIT関連の教育なども今の日本の教育業界に課せられています。その背景には、現在の日本の社会が抱えている「少子高齢化」という大きな問題があります。少子化はその国の存在をも左右するほどの危険性をほらみ、日本企業の国際競争力に対する危機感も強く感じられます。急速に進むIT社会への対応は大きな課題で、コンピュータ、インターネット、携帯電話などを使う情報技術や通信技術の進化、深化は激しい動きとなっています。

今年度の中学入試では、少子化による受験生獲得競争という側面はありますが、大学入試共通テストに繋がる選抜方法を行っている学校に受験生側が魅力を持ったともいえるでしょう。大学入試改革にいち早く対応した中学校への受験へと結びつく傾向があったように感じます。その結果、平成 31 年の首都圏の私立・国立・公立中高一貫校を含めた総受験者は約 3,000 名増加しました。

高校入試では 1 都3県で 3,000 名近い受験生の減少となりました。その影響は公立高校志願者の減少という結果として現れました。大学入試改革への不安は中学受験生だけでなく、高校受験生にもみられました。さらに、文科省による大学の定員の厳格化方針も影響が出たようです。これは、地方創生のための大都市圏への学生の集中を是正するための国の方策で、入学定員を上回ると、私立大学は助成金がカットまたは不交付となり、国立大学は学生納付金相当額を返納するという措置が採られることになりました。この制度を懸念し、各大学では合格者を絞り込み、補欠合格者から繰り上げて定員を守ろうとする方策に舵を切ったため、首都圏の各大学の難化が進み、それに伴い大学付属系高校や大学進学実績校

の人气が高まったようです。

一方、私学助成に対する東京都の授業料軽減制度は、平成 29 年より大きく拡充され、都内在住で一定の収入以下の世帯は、国の就学支援金に加えて東京都の授業料軽減助成金制度による助成金を上乗せして受け取ることができるようになりました。この助成金が都内私立高校の平均授業料に相当し、私立高校の費用負担が大きく軽減されることになりました。このことから、私立高校の人气が上昇したとみられています。ただ、東京都と同様に他県でもこの学費軽減制度はありますが、住居する都県によって、助成金の額の違いや支給対象者の違いがあるなど問題点もあります。

今後、選ばれる中学・高校は、まず2年後に迫った大学入試改革への取り組み方に大きく影響されるでしょう。さらに、国際競争力を強化するためのグローバル教育やIT、AI(人工知能)に向き合う社会への適応力などを育てる教育機関であるかどうか大きな選択肢になると思います。

変化が激しい時代だからこそ、その生徒に合った中学・高校選びが大切になります。我々、それを指導する側や広報する側が今後ますます重要になるのではないのでしょうか。

